

## 「第1回仁淀川清流保全推進協議会」における委員の主な発言について

日時 平成24年7月17日（火） 13:30～15:30

場所 いの町 かんぼの宿 伊野 1階会議室

### ■寄付贈呈式

株式会社サンプルザより当協議会に対して、オリジナル肥料の売り上げの一部を仁淀川の清流保全のために寄付（10万円）するとの申出があり、贈呈式を行った。

### ■議題

#### 1. 平成23年度事業報告及び決算報告について

- ・事務局より平成23年度の事業及び決算について報告。  
斉藤委員より平成23年度事業についての監査報告があり、特に異議はなく承認された。

#### 2. 平成24年度事業計画及び収支予算について

- ・事務局より平成24年度事業計画及び収支予算について説明。
- ・宣伝経費（ポスター、チラシ印刷費）などの予算が昨年度より減少しているが、仁淀川のPRを考えると大丈夫か。
- ・昨年度は初めての事業予算で、一斉清掃の実施にあたっての記念品や登り旗等の初期経費を計上していた点や、協議会の財源であるアサヒビールからの寄付金が減少傾向にあることことからシンポジウムの報告書の印刷経費等について見直したもの。
- ・アサヒビールには、もっと感謝を伝えていくべきではないか。
- ・仁淀川を良くしていくことは大事であり、協議会の活動継続を考えると他にも財源確保に努めてほしい。
- ・サンプルザの取組を周知することや支援いただける企業の発掘が大事。
- ・県としてもアサヒビールへのフォローや協議会の財源について、検討して

いきたい。

- ・仁淀川シンポジウムは、流域のお互いを知る場であると同時に、仁淀川全体のデザインが語れる人を呼んでほしい。
- ・以上の質疑応答の後、承認された。

### 3. その他（報告事項）

- ・仁淀川地域観光協議会の活動について、平成23年度32件のツアーを催行し、716名の参加があった。NHKスペシャルなどのおかげで、平成24年度は4～6月で、既に28件のツアーを催行し、618名の参加があった。桜ツアーの参加者だけで400名を超えている。また、カヌー、ラフティングも昨年度の3倍の伸び。全日空が84万部発行する機内誌「翼の王国」8月号に＜仁淀川のたからもの＞特集記事18ページも掲載される。
- ・仁淀川漁協では、8月19日に土佐市グランディールでシンポジウムを開催する。うなぎの世界的権威である青山潤先生の基調講演とパネルディスカッションは、NHKの西川ディレクターをコーディネーター、写真家高橋宣之さんから話題提供及び写真パネルの展示。元「BEPAL」編集長の黒笹さん、水中カメラマンの大倉さんも参加いただき仁淀川未公開映像もある。
- ・相生川河口の排水問題について心配している。清流仁淀川のイメージによくない。機械式浄化装置は高額なため、浄化は沈殿方式が採用され、国交省が沈殿槽を5基設置してくれたが、当初は10基設置の案もあり、さらなる増設も検討してほしい。
- ・相生川の製紙排水浄化のため関係者は色々取り組んでいる。県環境対策課の所掌になるが、排水基準（SS40mg/l）を条例で設定。製紙工業会は、条例のSS基準の順守に取り組んでいる。いの町も排水対策設備への補助金も出しているが、さらに対策が必要ということで、清流ルネッサンス2という国・県・町・製紙会社からなる会議で対応を検討。国交省の方で沈殿槽を5基設置し、平成23年5月より5基の沈殿槽を町により運用を始めたところ。運用を開始してまだ1年、これから数年かけて浄化能力の調査検討を行い、結果を見ながら検討したいと思う。